

## 第2回 学校運営協議会 議事録

### 開催概要

日時：2025 年 12 月 10 日（水） 午前 10 時 00 分～12 時 00 分

場所：吹田支援学校 会議室

出席者：委員 6 名（全委員出席）、事務局：学校長、事務長、教頭、首席、部主事、進路指導主事

### 1 校長挨拶

- 11 月 29 日 学習発表会を実施。保護者の参観により「子どもたちの目の色が変わり、頑張る姿」が顕著に見られた。
- 11 月は特別時間割で約 1 か月の練習期間を設定。感染症（インフルエンザ）流行の中で体調管理・予防を徹底。
- 今後の行事：校内外のマラソン大会等、冬季行事の本格化に合わせ安全管理を継続。

### 2 資料確認

- 配付資料：表紙、指導案、令和 8 年度使用教科書選定一覧、進路進捗状況、学校教育自己診断アンケート、働き方アンケート、吹田学びスタンダード。

### 3 報告

#### 令和 8 年度使用教科書（選定・採択）一覧表

- 令和 8 年度使用教科書：児童生徒の実態に応じて、視覚的理解を助ける教材（イラスト等）や生活・社会参加に即した内容を選定。
- 選定結果は各学部の教育方針に沿って採択済み。

#### 令和 7 年度進路状況報告（高等部）

- 卒業予定：35 名。内定・方針確定。
- 近年は「自立訓練（生活訓練）」等へのニーズが高く、卒業後も学びの時間を確保したいという保護者・本人の希望が増加。
- 職業コースの生徒は、2 年生の 1 年間で平均 5 か所程度の企業実習を経験し、職種理解・適性把握の機会を拡充。

- 大阪府外へ転居予定の生徒について、受け入れ先支援学校の進路担当とオンラインで連携し、現地実習・情報提供を実施。地域差のある進路決定プロセスを把握。

#### 学校教育自己診断アンケート

- 回答率：児童生徒 24%、保護者 51%、教職員は 100%超（重複回答の申告あり）。匿名のため重複分の特定は不可。
- 児童生徒の肯定的評価は多数（70%超の項目が複数）。否定的評価 30%以上の項目は無し。
- 進路関連の設問では「わからない」が多く、系統的な進路情報提供の強化が課題。
- 保護者アンケートの自由記述では、設備・システム、行事、保護者会、給食、進路等に関する意見が幅広く寄せられた。
- 教職員アンケートは 19 項目すべて肯定的評価 70%超。校長のリーダーシップ評価に関する課題認識（否定的 20%）も共有。

#### 働き方アンケート

- 休憩時間：多くは確保できているが、業務量・代替対応・残業制限等の理由で取りづらいケースあり。
- 時間外業務：授業準備が中心。教材作成・授業データ作成の持ち帰りが過半数。
- 在校時間の推移：学習発表会前後で 45 時間超の該当者が前年より減少傾向。
- 意見：教材共有、業務の精査、業務量の均等化、会議時間の短縮、事前資料の徹底、回覧・書面化の活用等。

#### 吹田学びスタンダード（授業改善の方向性）

- 「知る→わかる→使う→つながる」の学びサイクルを重視。教員はファシリテーターとして、「教え込み」から「主体的学びの支援」へ。
- ICT 活用だけでなく、実体験・体験的学びを重視。導入で動機付け、探究を通じた理解、現実場面での活用、仲間・地域への発信でつながりを形成。
- 系統性と発達段階に応じたグループ編成、インクルーシブな学びを推進。

#### 4 授業見学（中学部 2 年 C グループ：職業・木工）

- 積極的に発言し、学校生活でリーダー的役割を担う生徒が多い。
- 単元「時計を作ろう」：文字盤デザイン案をプレゼン→投票で決定。設計図作成からフレーム加工・系のコット・片付けまで一連の作業。
- 機械工具（トリマー・系のコ等）に慣れ、安全配慮のもと自分の思い通りに作業を進める姿が見られた。

- 後半は畑作業（大根栽培）で成長観察・記録。時間と手間のかけ方が質の向上につながることを体験的に学ぶ。

## 5 休憩

## 6 協議

### 働き方改革・会議運営の改善

- 方向性：持ち帰り業務ゼロ、残業削減、休憩時間確保。生産性重視の評価へ。
- 方策：教材の横展開（共有・再利用）、会議の目的・時間の明確化（定刻開始・40～45分で終了目標）、事前資料徹底、議題以外の脱線抑制。
- 管理職のリーダーシップ：トップダウンとボトムアップのバランス。議論を踏まえ納得感のある決定へ。
- 制度面：テレワーク・ICT活用の前提整備、情報セキュリティ配慮の上で持ち帰り業務の是非を検討。
- 意見：業務量のばらつき解消、定数改善の要望、若手・子育て世代に配慮した勤務設計、休憩室の周知。

### 授業改善（スタンダードの具体化）

- 授業デザイン：導入で「知りたい」を引き出し、検索・話し合い・実験・作業等を通じて理解を深め、日常生活や地域での活用・発信へ。
- AI・ICT活用：教員・児童生徒ともにAIを適切に活用し、知識獲得・整理・表現の効率化。
- 教材共有：基本構成は共通化し、写真・事例差し替えて各学級の実態に合わせる。若手の授業準備負担軽減。
- 教科会議：横の連携を強化。公開授業に向けた教科単位の検討により教材研究の質を高める。

### 不登校児童生徒への対応

- 放課後登校：保護者同伴での夕方来校、静かな環境で担任等と活動を積み重ね、安心感を醸成。
- ステップアップ事例：好きな活動（運動・折り紙・将棋・チェス）から始め、舞台発表へ参加するまで段階的に参加が進んだケースあり。
- 全校的共有：情報共有は学年内に留めず、他学年にも展開。多面的支援体制を構築。

### 保護者・委員からの意見の整理

- 授業参観日程の重複に関する配慮要望。行事・会議との調整を工夫し、年間計画で重複回避を目指す。

- 資料の質と準備時間のバランス：共有・再利用で効率化しつつ、口頭補足や当日のファシリテート力で質を担保。
- 評価・人事制度：残業時間の多寡ではなく生産性を評価する仕組みへ。第三者の助言も活用。
- 定数改善の要望：学級編成の柔軟化や加配の拡充等、制度的課題の提起。

#### 次回予定

- 開催日時：令和8年2月4日（水）
- 予定議題：進路状況報告、次年度課題の整理、ウェルビーイング推進（教職員と児童生徒双方）。